

# 大西市長に対し来年度の予算要望を行いました

10月30日、日本共産党熊本市議団と同地区委員会は、大西市長に対して、来年度の予算編成に関する要望書を手渡し、懇談を行いました。



## 福祉・教育の充実について

「国保料が高くて払えない」「子育てにかかる負担の軽減をしてほしい」など、格差社会の中で、切実な相談が寄せられています。

要請では、①国保料の引き下げ。②子ども医療費助成制度は完全無料とすること。③子ども

食堂への支援拡充と学習支援の対象学年拡大。④障がい者へ

のおでかけパス券の復活などを求めました。



## 震災からの復興・復旧について

### 被災者支援の拡充、医療費減免の復活など実態に即した支援を！

熊本地震から、1年半。現在、熊本市内では約1万世帯が仮設住宅（みなしを含む）に入居し、住まい再建のめどが立っていない被災者も多く残されています。また、自宅や宅地の修繕費用が出せず、手付かずという方も少なくありません。こうした中で、9月末には、医療費の減免制度が打ち切られました。

来年度の予算編成に向けた要請では、被災者の実態把握に努めるとともに、実情に沿った支援となるよう制度の拡充や新設

を求めました。

- ① 生活再建支援金の引き上げと市独自の上乗せ。
- ② 一部損壊世帯への支援制度創設。
- ③ 医療費減免の復活。
- ④ 現状や課題を把握するための市民アンケートの実施。
- ⑤ 擁壁被害や液状化被害など宅地被害に対して補助金加算制度の創設。
- ⑥ 災害公営住宅の拡充、民間住宅入居者への家賃補助創設
- ⑦ 災害援護資金貸付は無利子にし、猶予期間を延長すること。

### 大西市長「実態把握に努め、被災者支援に取り組む」

要望書を受けた大西市長は「被災者が置かれた実態をしっかりとつかむことが重要だと考えている。住宅再建に向け、仮設入居者へより具体的な意向調査を行い、生活再建につなげていきたい。要望を担当部署とも共有して新年度の予算編成を考えたい」と回答しました。

※予算要望の全項目は市議団ホームページよりご覧いただけます。

【控え室から】  
3割の得票で6割の議席  
なすまどか

10月22日投票が行われた衆議院選挙は、自公が3分の2を占める結果となりました。獲得議席に注目が寄せられがちですが、得票数と議席の関係についてはあまり知らされていません。

各政党への投票が行われる比例代表選挙で投じられた票は全体で約5576万票。その内、自民党が得た票は、約1856万票と全投票数の3割ほどです。しかし、衆議院の獲得議席を見れば自民党が6割の議席を得る結果となっています。

一方、立憲民主党、共産党、社民党の比例の合計得票は約1642万票と自民党と肉薄していますが、獲得議席は69議席と全体の15%に過ぎません。

民意と獲得議席が大きく乖離してしまう主たる原因は、小選挙区制度にあります。多くの死票を生み一人の当選者の民意しか議席に反映されない小選挙区制度。その矛盾は、改憲発議などが目まれる今日、ますます顕著になっています。

「1票の格差」など、様々な課題が指摘されている選挙制度ですが、国民の声が正確に議席に反映されない小選挙区制度こそ廃止し、改善が図られていくべきです。



**日本共産党 市議会だより**

発行：日本共産党熊本市議団  
上野みえこ なすまどか 山部ひろし  
熊本市中央区手取本町1-1 3階

NO. 1071  
2017年11月5日  
電話 328-2656  
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp  
HP：[共産党 熊本市議団](#)

## 県民300人が総決起集会

# 立野ダム 工事の一時中止と説明責任を！

10月28日、国土交通省が白川上流の立野峡谷（南阿蘇村、大津町）で建設を進めようとしている立野ダムに対して、建設に反対する県民総決起集会「阿蘇ジオパークを立野ダムでこわさないで！」が熊本市で開かれました。

集会には約300人が参加、工事を一旦中止し、流域住民への説明会開催を国に求める宣言文が採択されました。

### あらためて問われる穴あきダムの危険性

7月の九州北部豪雨で被災した福岡県朝倉市上流域と熊本地震で斜面が崩落した立野地域を空撮した動画が上映されました。

おびただしい量の土砂や流木の映像に、立野ダムに設けられる放流孔が詰まり、洪水調節機能が失われるとともに、ダム津波など

の危険性が指摘されました。



### 立野ダムは、熊本市流域の治水のため？

集会では、「立野ダムによらない自然と生活を守る会」の緒方紀郎さんの基調講演がありました。

国は、ダム建設の理由を白川流域の治水のためとしています、  
「5年前の豪雨で白川が溢れたのは河川改修が済んでいなかったと

ころだけで、今ではその改修も終わっている」、「この改修により流域には既に、立野ダムの治水効果以上の流下能力があることが、国が公開した資料からも証明されている」と指摘し、ダムの必要性がないことを訴えました。

### 貴重な柱状節理—自然破壊の面でも、おおいに問題



阿蘇ユネスコ世界ジオパークガイド、中島一美さんが発言。国の復興工事で柱状節理が破壊

されたことに触れ「震災復興を大義名分に工事が優先された。行政はジオパークの重要性を認識していない」と指摘されました。

工事のみならず、ダム完成後の試験湛水でも貴重な北向谷原生林が水没し、多大な自然破壊をもたらします。

### 流域住民からも不安や心配の声が、次々と

集会では、白川流域住民のリレートークも行われ、中央区渡鹿地区と北区龍田地区の住民、国と県・市に対して説明会を求める要望書を提出した女性、また白川漁協の元組合長の発言がありました。

「住民不在のダム建設決定に不安と怒りを感じる」、「昨年の

熊本地震でダム建設予定地のありさまを見て、自分自身のこととしてダム問題を考えるようになった」など、ダム建設への不安、懸念が述べられました。



### 国と県、そして市にも住民の声に答える責任がある

最後に、「ダム工事を一旦中止し、県民への説明、疑問に答えること」を国に求める宣言文を採択し、会は終了しました。

国だけでなく、ダムの最大受益地である熊本市にも、住民の疑問に対し答える責任が求められます。